

# 地域や小学校の教育資源としての学習・交流・ボランティア活動の場の提供

当施設は一貫して、『施設機能の地域還元の役割発揮』を主要実践活動テーマとして取組んできた。隣接する小学校とは、年間交流を設定し、様々な交流事業を行っている。小学校からの人の出入りは、入居者に地域の風を運んでくる役割も果たし、入居者の生活に張りや活力を生み出している。職員自身も、地域活動（清掃活動、祭り等）に積極的に参加するようになり、結果として、地域住民と施設との一体感が芽生え、お互いが協力し合える環境が育ちつつある。

社会福祉法人 **こうほうえん** 〒684-0063 鳥取県境港市誠道町2083番地  
TEL：0859-45-6781/FAX：0859-45-6785

## ◆ 法人の概要

法人設立年：昭和61年6月  
経営施設、事業（数）：10施設、82事業  
経営施設、事業（種別）：  
特養7、老健3、ケアハウス5、生活支援ハウス4、高優賃1、保育所4、リハ病院1、デイサービス12、ヘルパー4、訪問入浴2、訪問看護3、訪問リハ1、デイケア4、ショートステイ7、特定施設4、福祉用具1、グループホーム8、小規模多機能3

## ◆ 法人の理念・経営方針

<理念>  
私たちは、地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される『こうほうえん』を目指します  
<基本方針>  
私たちは、サービス業のプロとして、正しい情報を伝達し、自分が受けた、保健・医療・福祉サービスの、提供・改善に努めます

## ◆ 実施施設の概要

施設名：さかい幸朋苑  
施設種別：  
特養2ヶ所（90名+64名）、併設短期入所生活介護2ヶ所（6名+16名）、老健（50名）、ケアハウス（50名内特定施設18名含む）、生活支援ハウス（20名）、グループホーム3ヶ所（9名+18名+18名）、デイケア（50名）、デイサービス5ヶ所（37名+32名+10名+10名+認知症DS12名）、小規模多機能施設（15名）、ケアプランセンター、ヘルパー、訪問看護、福祉用具

活動開始年：昭和62年4月

活動の頻度・時間：

隣接する誠道小学校6学年とさかい幸朋苑事業所との年間交流設定

誠道小学校	交流設定部門	誠道小学校	交流設定部門
1年 19名	デイサービス（一般）	4年 17名	特別養護老人ホーム
2年 26名	デイケア	5年 18名	老人保健施設
3年 22名	GH・生活支援ハウス	6年 24名	ケアハウス

活動の対象者：

隣接する誠道小学校児童を中心とした市内全小学校・中学校・高校・地域住民（全ての年齢層に応じた、学習活動・交流活動・ボランティア活動メニューの提供・受入体制整備）

## 活動実施の背景、実施にいたった理由

境港市の特養（当施設）建設場所の候補地に小学校の隣接地を選定して依頼、当施設は一貫して、『施設機能の地域還元の役割発揮』を主要実践活動テーマとして取組んできた。

小学校との敷地間の水路に橋を架け（福祉・教育と行政的には複数課にまたがる課題の早期解決を目的に）、交流に往来する最短距離の道の確保を行って以来、小学校との交流・社会貢献の質向上を追及してきた。平成12年の鳥取県西部地震被災時にも、被害にあった小学校の体育館が使用できなくなった時期の代替施設として、施設併設のコミュニティーホールを提供して使用していただいた。実際に児童が行き来する中から、質の面で転換を遂げて発展してきた交流活動も存在しており、既成概念にとらわれず制約の中から何かを生出す（創造する）ことに価値観を持って取組んでいる。

## 実施内容

1. 隣接する誠道小学校6学年と幸朋苑6事業所との年間交流の設定
  - ・児童交流前の小学校教職員の学習会実施（サービス・部門の特徴把握、車椅子体験・高齢者疑似体験等）
  - ・誠道小学校年間行事の地域・施設との共有・・・運動会・誠道小学校カーニバル・クリスマス会・餅つき大会等（七夕交流集会は施設ナマステホールでの開催）
  - ・各学年での交流活動・・・おやつ作り・音楽・作品等協同制作・園芸・演芸等を題材とした交流活動の推進、夏休み期間中等の暑中見舞いはがき交流の促進
  - ・4年生を中心とした学習メニューの展開（授業への職員派遣、車椅子体験・高齢者疑似体験の実施、食事形態の学習等）
  - ・6年生の年間交流と入居者からの卒業の祝辞・・・卒業生を祝う会
  - ・小学校芝生化事業に対しての施設の全面協力・施設車輛への防犯ステッカーの掲示
  - ・学校給食を共有する交流の取組み

- ・ 苗植え・栽培・収穫を共有する園芸交流活動の取組み
  - ・ 利用者・入居者が版画・似顔絵・絵画等のモデルになっての授業の展開と交流
  - ・ 施設が受入れた海外からの研修生との国際交流学習の実施
2. 誠道小学校のノウハウを生かした市内他の6小学校での交流設定
  3. 中学校が主催する職場体験事業の受入施設登録・活動受入
  4. 境港市が実施する福祉教育実践事業（中学校中心）の受入施設登録・活動受入
  5. 県社協が主催するボランティア事業（高校中心）の受入施設登録・活動受入
  6. 養成過程・専門学校の養成実習・学生の自主実習等受入
  7. ボランティアセンター主催等の社会人一般を対象としたボランティア講座・受入施設登録

## 活動効果

- ・ 施設入居者の生活を考えると、入居者は地域での生活主体者であり、それを支援・サポートする施設の役割が問われる。施設が地域から閉ざされ隔離されている中では、そこでの生活は極めて貧弱なものにしかなり得ない。地域からの人の出入りは、入居者に地域の風を運んでくる役割も果たし、入居者の生活に張りや活力を生み出している。入居者がその地域の一員として生活することの意味を、当たり前のことながら活動を通じ再認識することができている。職員自身も、「自分たちの施設は地域の一員である」として意識し始めており、地域活動（清掃活動、祭り等）に積極的に参加するようになった。結果として、地域住民と施設との一体感が芽生え、お互いが協力し合える環境が育ちつつある。
- ・ まず施設がその地域の中で果たす役割は、介護サービスの提供だけに留まらない、専門分野・専門知識等施設の持てるノウハウを、地域の教育資源として役割発揮することが第一義的な地域貢献である。じっくり地域を見据えることで、小学校・公民館・PTA・自治会等の活動とも連携が深まり、協力する活動の幅は広がってきている。

## 今後の課題

さかい幸朋苑エリアでは、市内7校区中6校区でサテライト施設等の事業所展開を果たしている。この間、地域展開プロジェクトチームの編成・活動展開もあり、市内全校区での地域貢献活動推進が課題となった。しかし、サテライト施設は規模が小さく誠道地区のように複合拠点施設となっておらず、全ての校区が同等同質の活動とは至っていない。その地区の小学校・公民館・自治会等々地区組織との関係作りや連携は、規模の大小にかかわらず欠かせぬ要素である。故に、「校区の教育資源」として当該地域から認知してもらうまで根気強く働きかけを続ける必要がある。誠道地区の実践を共有し、職員の意識転換や複合拠点施設のバックアップを行いながら、各サテライト施設での活動展開を行い、全市において「地域の教育資源」として認識していただくまでになることを目指したい。